

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2006～2009

課題番号：18201046

研究課題名(和文) アフリカ熱帯林における人間活動と環境変化の生態史的研究

研究課題名(英文) Ecological History of Human Activities and Environmental Change in African Tropical Forest

研究代表者 木村 大治 (KIMURA DAIJI)

京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授

研究者番号：40242573

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：生態史, アフリカ, 熱帯林, 環境変化, 人間活動

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、人類が熱帯林の中に入り、そこに住まうとき、どのようなやり方でそれをおこなっているのか。その多様性と意味を、情動的、社会的環境をも視野に入れた広義の生態学視点に立って明らかにしていくことである。具体的には、これまで京都大学を中心とする日本の研究者が長期にわたって調査をおこなってきたカメルーン東南部の熱帯林を中心に、そこに住む狩猟採集民および農耕民を対象に、「生態環境」「情報環境」「社会環境」の3つの軸に沿って、上記の視点からの調査をおこなっていく。

2. 研究の進捗状況

これまでに延べ10人以上の研究者を現地に派遣し、「生態環境」「情報環境」「社会環境」それぞれの視点から、人々の森への「棲まい方」を調査している。具体的には、「生態環境」については、狩猟採集民バカの森林キャンプにおける生業活動の計測、森林および村落における土壌環境および微気象のデータの収集、農耕漁撈民の漁撈活動の調査など、「情報環境」については、バカの日常会話および社会的相互行為のビデオ分析、バカおよび農耕民のサウンドスケープの調査など、「社会環境」については狩猟採集民と農耕民の社会関係、自然保護活動や森林伐採などの狩猟採集民社会への影響の調査などをおこなっている。またカメルーン以外の調査地(ガボン、コンゴ民主共和国、コンゴ共和国など)におけるデータとの比較研究も積極的に押し進めている。

これらの調査の成果については、年間数回にわたっておこなう研究会(「カメルーン連絡

会議」,「ピグミー研究会」,「コミュニケーションの自然誌」など)において相互討論をおこなうことによって考察を深めている。その結果は、研究計画最終年度に京都大学学術出版会からの出版が決定している2巻本の論文集「森棲みの生態誌」「森棲みの社会誌」にまとめられる予定である。さらに研究成果は、「カメルーン・フィールドステーション・ホームページ」<http://jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/cgi-bin/CamerounFS/wiki.cgi>を通じて、常時一般に公開している。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

全般的な調査については多くの研究者を現地に送り込むことによって、比較的順調にデータを集積できている。また研究成果も順調に出版されつつある。一方、当初の計画にあったような、ある一地域に集中した生態学的調査は、研究者たちの個々の調査の都合上、思ったほど密にはできていない。

4. 今後の研究の推進方策

「一点集中型の調査」が思ったほど十分に進められなかったことに鑑み、今後はむしろ、アフリカ熱帯林の中の他地域との比較に重点を置いた研究を進めていこうと考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 11 件)

1. 木村大治「平等性と対等性をめぐる素描」『人間文化』 21:40-43 (2006) 査読有
2. 木村大治「生態人類学・体力・探検的態度」『アフリカ研究』 69:91-100 (2006) 査読有
3. 小松かおり, 北西功一, 丸尾聡, 埜狼星「バナナ栽培文化のアジア・アフリカ地域間比較—品種多様性をめぐって—」『アジア・アフリカ地域研究』 6-1:77-119 (2006) 査読有
4. Kitanishi, K. "The impact of cash and commoditization on the Baka hunter-gatherer society in southern Cameroon" African Study Monographs, Supplementary Issue 33:212-142 (2006) 査読有
5. Araki, S. "Ten years of population change and the chitemene slash-and-burn system around the Mpika area, northern Zambia" African Study Monographs, Supplimentary Issue 34:75-89 (2007) 査読有
6. 分藤大翼「ポスト狩猟採集社会の文化変容—仮面儀礼の受容と転用—」『アジア・アフリカ地域研究』 6(2):489-506 (2007)
7. Yamamoto, S., G. Yamakoshi, T. Humle & T. Matsuzawa "Invention and modification of a new tool use behavior: Ant-fishing in trees by a wild chimpanzee (*Pan troglodytes verus*) at Bossou, Guinea" American Journal of Primatology 70(7):699-702 (2008) 査読有
8. Tashiro, Y., G. Idani, D. Kimura & L. Bongoli "Habitat Changes and Decreases in the Bonobo Population in Wamba, Democratic Republic of the Congo" African Study Monographs 28(2):99-106 (2007) 査読有
9. 山越言「生物多様性を理解するとはどういうことか—研究とフィールドのはざま—」『エコソフィア』 29:66-79 (2008) 査読有
10. 寺嶋秀明「伊谷純一郎の「人間平等起原論」をめぐって」『人間文化』 23:1-12 (2008)

11. 小松かおり「バナナの商品化と品種多様性—インドネシア・南スラウェシの事例から—」『国立民族学博物館調査報告』 84 (2009) 査読有

〔学会発表〕(計 3 件)

1. 分藤大翼「Jengi (「映像フォーラム」にて上映発表)」日本アフリカ学会第 44 回学術大会 2007 年 5 月 長崎
2. 木村大治「コンゴ民主共和国ワンバにおけるティラピア養殖と小家畜飼養の試み」日本アフリカ学会第 45 回学術大会 2008 年 5 月 京都
3. 分藤大翼「森の民の 30 年—狩猟採集社会の研究史—」日本文化人類学会第 42 回研究大会 2008 年 5 月 京都

〔図書〕(計 4 件)

1. 市川光雄『ファースト・ピープルズ—世界先住民族の現在第 5 巻 サハラ以南アフリカ』(「ムブティ・ピグミー: 森の民の生活とその変化」を執筆) 明石書店 (2008)
2. 市川光雄『ヒトと動物の関係学』池谷和信・林良博編(「ブッシュミート問題—アフリカ熱帯雨林の新たな危機」を執筆) 岩波書店 (2008)
3. 小松かおり『朝倉世界地理講座—大地と人間の物語— 12 アフリカ』池谷和信・武内 進一・佐藤廉也編(「バナナとキャッサバ—赤道アフリカの主食史」を執筆) 朝倉書店 (2008)
4. 木村大治『文化人類学事典』(「相互行為」「挨拶」「携帯とインターネット」の項目執筆) 丸善 (2009)

〔その他〕

ホームページ

<http://jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/cgi-bin/CameroonFS/wiki.cgi>